



資料 3

食環境戦略的イニシアチブ推進事業について

神奈川県 健康医療局 保健医療部 健康増進課

令和8年2月16日

本日の説明事項（目次）

- 1 「かながわ健康プラン2 1（第3次）」における位置付け
- 2 食環境戦略的イニシアチブ推進事業の概要
- 3 食環境戦略的イニシアチブ推進事業の今後の取組方針

1 「かながわ健康プラン21（第3次）」における位置付け

1-1 「かながわ健康プラン21（第3次）」の概要 / 概念図

基本理念

いのち輝くマグネット神奈川

全体目標

健康寿命の延伸と健康格差の縮小

個人の行動と健康状態の改善

生活習慣の改善

- ・栄養、食生活
- ・休養、睡眠
- ・喫煙
- ・身体活動、運動
- ・飲酒
- ・歯と口の健康

生活習慣病対策

- ・がん
- ・循環器病
- ・糖尿病
- ・COPD
- ・健診等

生活機能の維持・向上

- ・ロコモ
- ・骨粗しょう症
- ・こころの健康

個人の
取組目標

アクションプランの留意事項や
好事例等を踏まえて実施

社会環境の質の向上

新1

自然に健康になれる 環境づくり

- ・持続可能な食環境づくり
- ・まちなかづくり
- ・受動喫煙防止

社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上

- ・地域の人々とのつながり
- ・社会活動
- ・地域等での共食
- ・こころの健康

誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備

- ・健康経営
- ・産業保健サービス
- ・活動企業
- ・特定給食施設
- ・未病改善の推進
- ・未病センター

新2

ライフコースアプローチ ・ こども ・ 高齢者 ・ 女性

新3

1 - 2 「かながわ健康プラン2 1 (第3次)」における位置づけ

かながわ健康プラン2 1 (第3次) における目標

	目標【指標】	現状値 (計画策定時)	目標値
4 6	「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」の推進	未参画	参画 (令和14年度)

(関連する目標)

	目標【指標】	現状値 (計画策定時)	目標値
8	食塩摂取量の減少【食塩摂取量の平均値】	9.9 g (平成29年～令和元年)	7 g 未満 (令和14年度)
3 (一部)	若年女性のやせの減少 【BMI 18.5 未満の20～30歳代女性の割合】	15.9% (平成29年～令和元年)	12% 未満(令和14年度)
3 (一部)	低栄養傾向の高齢者 (65歳以上) の割合の減少 【BMI 20以下の高齢者 (65歳以上) の割合】	16.7% (平成29年～令和元年)	13% 未満(令和14年度)

※目標3「適正体重を維持している者の増加」の一部を再掲 (参考資料1 参照)

2 食環境戦略的イニシアチブ推進事業の概要

2-1 背景

- 活力ある「人生100年時代」の実現に向けて、健康寿命の更なる延伸が課題となっている中、**健康無関心層を含めた誰もが自然に健康になれる食環境づくり**の推進が急務。
- **国は**、令和5年に策定した『健康日本21(第三次)』において、**産学官連携による「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」(※)**の推進を掲げ、各都道府県にも参画を求めている。
- これを受けて、**本県も**『かながわ健康プラン21(第3次)』において、この取組の参画を目標の一つに掲げている。

※「食環境戦略的イニシアチブ」とは・・

誰もが自然に健康になれる食環境づくりを目的とした産学官等の円滑な連携を図るための
枠組み・プラットフォームのこと (先行自治体:福島県、福井県、兵庫県)

2-2 本県における「食の環境づくり」～食環境戦略的イニシアチブの構築～

意義

- 「いのち輝くマグネット神奈川」の実現に向けて、健康・栄養課題（食塩の過剰摂取や女性のやせ、低栄養傾向の高齢者）の改善を図ることは、健康寿命の延伸・健康格差の縮小において非常に重要。

課題

- 健康無関心層にどれだけ啓発活動を実施しても、行動変容に繋がりにくい。

食環境づくりの設計思想・イメージ

- **そこで、健康無関心層への啓発と並行して、食環境そのものを変えていくことを検討。**
【例】減塩に向け、流通する全ての食品やお惣菜・お弁当を既存の商品より2g減塩し、主流化できれば、県民は自然に、健康関心度の程度にかかわらず2gの減塩を達成できる。

食環境づくりを推進する枠組の構築 ※令和8年度～

- 健康無関心層も含めて、自然に健康的な食生活を送ることができる「食環境づくり」を推進するため、**産学官連携による神奈川県版「食環境戦略的イニシアチブ」（食環境づくりのためのプラットフォーム）の構築を目指し、県民の健康増進を図る。**

2-3 「食の環境づくり」で取り組む主な健康・栄養課題

健康・栄養課題	現 状 ※1	目 標 ※2
食塩の過剰摂取	県民の食塩摂取量の平均値(20歳以上)は、9.9g/日(男性10.8g/日、女性9.2g/日)である。	7g/日未満
若年女性のやせ	20～30歳代女性のうち、15.9%(約6人に1人)がやせ(BMI18.5未満)である。	12%未満
高齢者の低栄養	65～74歳の高齢者のうち、17.4%(約6人に1人)が低栄養傾向(BMI20以下)である。	13%未満

食環境戦略的イニシアチブとは

誰もが自然に健康になれる食環境づくりを目的とした**産学官等の円滑な連携を図るための枠組・プラットフォーム**

健康寿命の延伸と健康格差の縮小を達成し、持続可能な「いのち輝くマグネット神奈川」を実現！

健康・栄養課題の改善（食塩の過剰摂取・若年女性のやせ・高齢者の低栄養）

誰もが自然に健康になれる食環境の構築

神奈川県版 食環境戦略的イニシアチブ

イニシアチブの役割

- ①参加者の推進する食環境づくり（計画）をサポート（PDCAプロセスの支援）
- ②既存の取組の後押し
 - ・取組情報の集積・広報による普及啓発
 - ・取組の輪を広げる後押し（マッチング）
- ③新しい活動の創出
マッチング+地域展開
- ④国や他県の取組情報等を共有

産

食品製造

栄養面又はこれに加えて商品の積極的開発・主流化。事業者単位又は全社的に行う栄養面・環境面の取組の推進。

食品流通

健康関心度等に応じた販売戦略(棚割り、価格等)の推進。

メディア

食品製造・食品流通事業者と連携した広報活動等の展開。

金融機関

金融機関によるESG融資における優遇の実施や地域イベントへの支援・協力。

事業者共通

美味しく手軽に減塩できるレシピ開発・紹介、健康的で持続可能な栄養・食生活の重要性及びその実践に向けた工夫等に関する情報発信。

官（神奈川県、市町村）

- ・国と連携した、地域診断・地域特性を踏まえた食環境づくりの推進
- ・県全体の仕組みづくり・成果等の取りまとめ、関係者間の調整
- ・食生活改善のための勉強会の開催 など

(例)

減塩食品・弁当の共同開発
販売促進



学

- ・中立的・公平な立場での食環境づくりに資する研究の推進
- ・事業者への適正な支援、消費者への適正な情報の提供

職能団体・市民社会等

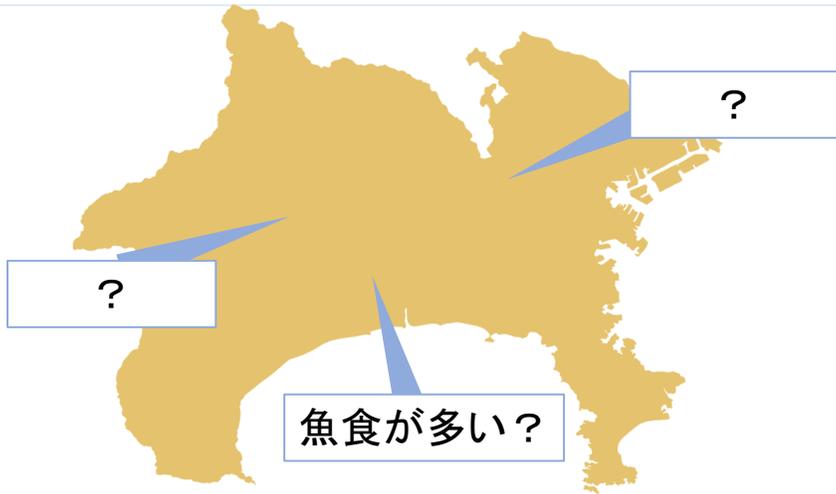
- ・事業者への建設的提言
- ・消費者と事業者の適切な仲介

3 食環境戦略的イニシアチブ推進事業の今後の取組方針

3 食環境戦略的イニシアチブ推進事業の今後の取組方針

(予定)令和8年度以降 地域の「食」の実態分析

県内でも地域や世代によって食文化等の違いがあるため、大学や市町村等と連携しながら調査・分析を行う



若年層の塩分摂取:カップラーメン?

高齢者 // :漬物? 等々

(予定)令和9年度以降

「減塩」を“主流化”する取組

食品メーカーやスーパー・コンビニ等と連携し、

- ・既存商品を(おいしさそのままに、こっそり)減塩する
- ・(さりげなく)陳列棚のゴールデンラインに配置する
- ・減塩に向けた普及啓発イベントを(大胆に)展開する 等

既存商品をおいしさそのままに
こっそり減塩



回鍋肉弁当



豆腐ハンバーグ弁当

自然に手に取る売り場づくり



ゴールデンライン
消費者が最も手に取る位置

(令和6年度食環境戦略イニシアチブ有識者意見交換会・交流会配布資料より引用)

地域や世代の傾向に応じて、健康に良い食品を自然に手に取れる環境づくりを!